

Xトラベル社¹

《企業概要》

Xトラベル社は、1970年創業（添付資料1）。格安航空券の販売を通じて、これまで、急速に伸びてきた旅行代理店である。資本金6,000万円、社員数は国内に270名、海外に80名、国内店舗に30の支店、海外に15の支店を展開している。売上高は、2011年実績で、約215億円である。（添付資料2）

《創業の経緯》

- 10 法人事業部の責任者である伊藤法人事業部長は、経営コンサルタントの谷口に自身が掌管する法人事業部のコンサルテーションを依頼しようと考え、法人事業本部に谷口を招いた。

- まず、沿革から説明を始めた。「当社の創業者は大木といいますが、大木は大学を中退して世界中をバックパッキングで見て歩いた時期があり、皿洗いや、靴磨きなどのアルバイトをしたと聞いています。最終的にはニューヨークの旅行会社で働き、日本に帰国後、1970年に日本で旅行会社をスタートしました。現在の社長は西村といいますが、創業者の大木の親族ではなく、他人です。当社には、大木が作った不文律で社員の親族などの関係者は、絶対に会社に入れないという考え方があります。中小企業としては、珍しい伝統を持つ会社であるといえます。したがって、西村も今後、後継者を社内で指名することになると思います。創業当時は、まだまだ海外旅行自体が一般化されていなくて、航空券の値段もかなり高く、日本とアメリカとの間にまだ直行便がなくて、アラスカのアンカレッジ経由で行くような状況でした。大木はアメリカでの生活で、日系アメリカ人に大変にかわいがってもらったようですが、アメリカ在住の日系の方のテーマとしては気軽に自国に戻りたい、たまには行き来したいというのがあったようです。当時、航空券が高くて50～60万円というような時代の話なので、帰りたくてもなかなか帰れない。そこで、安く自国に戻りたいというニーズが生じます。それを満たそうというのが、創業のきっかけです。共同購買すれば少しは安くなるという考え方でスタートでした。1970年に東京に本社を設置し、その二年後にニューヨーク支店を設置しているのは、そのあたりの事情があります。アメリカではアメリカ法人を立てたのですが、大木が世話になった日系アメリカ人で山谷という人間に頼み、社長になってもらっています。当社は、ニューヨークに拠点ができてはじめてスタートしたと言えるかもしれません。」
- 20
- 30

《現在の日本法人とアメリカ法人の関係》

「3、4年前に資本関係を見直して、現在アメリカ法人は日本側の完全子会社とうかたち

¹ 本ケースはXトラベル社の協力を得て、溝井&パートナーコンサルティング事務所 代表 溝井伸彰、独立行政法人 中小企業基盤整備機構 経営支援情報センター 阪上 哲統 括ディレクター、金子亮太ディレクター、堀田恭子の意見を参考に作成したものである。また、クラス討議の資料として作成されたものであり、特定の経営管理に関する適切又は不適切な例示をすることを意図したものではない。本ケースの著作権は、独立行政法人中小企業基盤整備機構に帰属する。（2013年1月）